

## <募集要項>

### 企業ごとのインターンプログラムについて

基本的にはご案内の通りですが、内容については、参加学生の皆さんの関心や得意領域によって、柔軟に変更していく予定です。下記選考にあるエントリーシートの提出や電話等での面談の際にご希望をお伝えください。

### プログラムの実施期間と募集人数

- 釜石・大船渡クール 2月5日～3月20日（企業によって異なる。原則全日程参加ですが、期間は相談に応じます。）／2名×3社 計6名
- 気仙沼クール 2月6日～3月19日（原則全日程参加ですが、期間は相談に応じます。）／2名×2社 計4名
- 女川クール 2月13日～3月3日（予定）／1名×2社 計2名
- 石巻クール 2月13日～3月3日（予定）／2名×2社 計4名

### 現地での生活について

- 宿泊先について  
基本的に現地コーディネーターにて手配します。
- 現地までの移動費用について  
一定額を補助します。金額についてはクールごとに異なります。
- その他費用について  
インターン保険は現地コーディネーターにて手配予定ですが、クールごとに異なります。  
食事代は基本的に自己負担です。自炊の可否等はクールごとに異なります。

上記、クールごとの詳細は復興庁担当者若しくは現地コーディネーターにお尋ねください。

### 募集について

- 募集受付期間 平成28年12月6日～平成29年1月13日17時まで  
※参加者が定員に達し次第終了、定員に達しない場合には追加募集有り。
- 応募方法 復興庁ホームページ 12/6 付の到着情報より応募用紙を取り出し、メールで下記宛先までご提出ください。  
[takeshi.shinohara.y4n@cas.go.jp](mailto:takeshi.shinohara.y4n@cas.go.jp)
- 選考等 復興庁宮城復興局若しくは現地コーディネーター団体よりエントリーシートを送付しますので、内容記載の上、ご返送ください。  
その後、電話やスカイプ等での面談を経て、参加可否を決定します。

## <岩手クール・受入企業紹介>

現地コーディネーター団体：NPO 法人 wiz

「一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校」(釜石)

### ●企業概要

三陸ひとつなぎ自然学校は、全国から集まる多くのボランティアとともに、釜石の復旧に取り組んできました。釜石に住む多くの人々が生み出す魅力的な価値を、その場、その人だけで終わらせることなく、次の世代に伝えることを目指し、現在は、ボランティアと自然体験を組み合わせた「ボランティアツーリズム事業」と、主に仮設で暮らす子どもたちを対象とした「子ども事業」を実施し、釜石の長期的な復興に向け、地域づくり活動に取り組んでいます。

### ●仕事内容

釜石の鉄人の魅力を伝える動画制作と“Meetup Kamaishi”の情報発信によるファンの獲得

【STEP1】 ツーリズム事業を理解(1 週目)

【STEP2】 “Meetup Kamaishi”に向けたプロモーション、情報発信(2~4 週目)

【STEP3】 “Meetup Kamaishi”の実施、プロモーション動画制作(5~6 週目)

### ●参加学生へのミッション

岩手県釜石市では震災後、多くのボランティアを通じて、新たなチャレンジを始めた地域の人たちがいます。その地域の人たちと釜石以外の人たちがつながり、釜石を好きになり、外から支える「釜石ファン」になってほしい。釜石の魅力あふれる「ひと」を発信し、釜石で行われる“Meetup Kamaishi”を共に盛り上げる若者を募集します。

※詳細はこちら：<http://npowiz.org/intern/86>



## 「サンコー食品株式会社」(大船渡)

### ●企業概要

大船渡湾につながる港のすぐ近くで、主にイカ加工品の製造・販売をしているサンコー食品。イカは東北地方の「地のもの」であり、いろいろな食べ方ができることに着目し、現社長小濱健さんのお父様である先代社長が、昭和56年に創業しました。小濱社長は、地元大船渡の雇用と素材を守り、国内企業ならではの安全性や利便性を追求し、信頼してもらうことを会社の基本理念にしています。具体的には、ミリ単位の細かい要望に応えたり、東京や大阪で聞いたお客様の声やいろいろな商品を参考にして提案したりと、地元大船渡から全国の食卓へおいしいイカを届ける積極的なアクションを起こしています。

### ●仕事内容

協力企業とともに品質改良に挑戦し、イカ加工品の活用メニューを提案する

【STEP1】企業理解、情報収集(1週目)

【STEP2】品質改良の検討と実施、レシピの検討と試作(2~4週目)

【STEP3】加工品活用レシピの提案、調理レシピ集の作成(5~6週目)

### ●参加学生へのミッション

イカの水揚げ量は年々減り、必要に応じて海外産のイカの仕入れ・加工も行っています。震災の後、従業員が率先してガレキ撤去や原料の片付けに集まってくれたり、地元の取引先の方々の力もあつたりして、約半年で工場を再開できました。地元雇用や地域産業を守りつつ、海外産のイカもおいしく食べてもらえるように、地元協力企業とともにイカの品質改良に取り組み、活用レシピを発信していきます。

※詳細はこちら：<http://npowiz.org/intern/268>



## 「アローリンクス株式会社」(大船渡)

### ●企業概要

アローリンクスは人を大切にし、地域の未来を創る社会システムを構築するイノベーター集団を目指しています。その一環として、地域のITスキルの底上げを目指し、地元企業の情報発信を推進するためのWEBサイトの構築・運営や高校生向けのITキャリア事業も行っています。2010年に創業し、その4か月後に被災、オフィスも大変な被害に遭いました。アローリンクスは震災とともに歩む企業であり、地域の課題解決を自分たちの使命ととらえています。

### ●仕事内容

#### 郷土芸能の魅力発掘、ツアー事業に向けたモニター企画・実施

【STEP1】取材先事前視察、プロモーションスタート(1週目)

【STEP2】ツアー内容の検討、郷土芸能・文化の体験取材(2週目)

【STEP3】ツアープラン確定、モニター募集開始(3~4週目)

【STEP4】体験ツアープランの実施、企画振り返り(5~6週目)

### ●参加学生へのミッション

大船渡には、震災をきっかけにして移住せざるを得なくなった女性たちがいます。そうした女性たちに大船渡を楽しんでもらいたいと始めたのが、地域webサイト「Ohfunako (オオフナコ)」です。そしてさらに多くの女性に大船渡の楽しさ、良さを知ってもらい、将来的には女性の活躍機会を創出することを目指し、女性×ITで郷土文化のコーディネート事業の立上げに挑戦します。

※詳細はこちら：<http://npowiz.org/intern/90>



## ＜気仙沼クール・受入企業紹介＞

現地コーディネーター：一般社団法人 まるオフィス

### 「アサヤ株式会社」

#### ●企業概要

アサヤ株式会社は、今年で創業166年。気仙沼の基幹産業である漁業に無くてはならない漁具の販売を通して、漁業家のお困り事の解決を担ってきました。海の上で活躍する漁師を、そして、三陸の漁業の繁栄を裏方として支え続けるなど漁師の女房役として地域に根ざした事業を行っています。

#### ●仕事内容

##### 地域を売り込め！気仙沼ブランドのECサイト強化プロジェクト！

【STEP1】 会社・サービスの理解+6週間の使い方を検討(1週目)

会社の思いや理念、またECサイトの現状についてヒアリングし、今後の行動計画を立てる。

【STEP2】 ECサイトのコンテンツ拡充・発信(2~3週目)

ECサイトに掲載予定の商品を取材・記事作成し、サイトに上げる。コンテンツ作成と並行して、サイトの見せ方や、コンセプトをいかに伝えるかについての戦略も立案し、実施していく。

【STEP3】 サイトの売上戦略の検討・実施(4~6週目)

サイトのコンテンツ拡充と並行して、サイトのPV及び売上アップにつながる施策を検討し、実施していく。インターン終了後も継続的に生かせる仕組み作りも視野に入れて検討する。

#### ●参加学生へのミッション

日本有数の港町、気仙沼。まちの中心産業である漁業によって、長く活気に溢れていました。しかし、東日本大震災によって沿岸部は壊滅的な被害を受け、水揚げ高は三分の一以下に落ち込みました。また、産業的にも震災前から右肩下がりになっており、様々な課題が複合的に起きています。地域を救うには、看板となる新たな販売チャンネルが必要であり、その中核を担うのがこのプロジェクトです。





## 「株式会社菅原工業」

### ●企業概要

地域における建設業者の役割、それは文字通り「まちの土台」を創る事です。菅原工業のコーポレートスローガンは“このまちを、つくる”。彼らが道を創り、道があるからこそ居住が生まれ、仕組みがあるからこそ人々が安心して、安全にこのまちで暮らせています。そして、単純に創るだけでなく、確かな技術力と誠意に裏打ちされた仕事によって、地域からも多くの信頼を集めています。

### ●仕事内容

#### 建設業のイメージ革新を目指す情報発信プロジェクト

##### 【STEP1】 業務理解+既存の広報戦略について知る(1週目)

専務の菅原さんから会社の取組・思いや、今後の戦略について伺います。また現場へと足を運び、実際の仕事を見学してもらったうえで、今後の活動について整理していきます。

##### 【STEP2】 取材班として現場に入る+広報グッズのアイデア検討(2~3週目)

現場に出て、実際の仕事内容を取材し、魅力をうまく切り出して記事を作成します。発信場所はWEBを想定していますが、それ以外の発信方法があれば、相談のうえ実施出来ます。また、並行して業界のイメージアップにつながるようなグッズのアイデアを出して頂きます。

##### 【STEP3】 現場取材+広報グッズの具体化(4~6週目)

引き続き、取材と発信を行っていきます。加えて、検討したグッズを実際に形にするために、デザイン決定や発注などを行っていきます。

### ●参加学生へのミッション

建設業。一言で表してもその業務内容は多岐に渡ります。しかし、その本質は「社会の基盤（インフラ）を整え、人々の安心・安全を守る」ことにあります。身近にありすぎるために見えづらく、ネガティブなイメージを持たれやすい建設業界、その本当の魅力・仕事の意義を発信し、業界に革新を起こすイメージ戦略を実行していきます。



## <石巻クール・受入企業紹介>

現地コーディネーター：合同会社 巻組

### 「田伝むし株式会社」

#### ●企業概要

『子供たちに安心して食べさせられるお米を作ろう。』

田伝むしはそんな思いから、土の力と太陽の恵み、稲の生命力を生かし、自然の営みに合わせた「ササニシキ」の無農薬栽培に取り組んでいます。栽培の過程にも消費者に関わってもらい、ファンづくりを丁寧に行いながら、新しい販路の開拓にも取り組んでいます。

#### ●仕事内容

土にふれて健康な食生活を愛する「ササニシキファン」づくり。

田んぼをつかったツアープログラムを考えよう。

【STEP1】有機無農薬の米づくりに関する業務理解

【STEP2】周辺地域の観光資源の開拓とツアープログラムづくり

【STEP3】モニターツアーの実施

#### ●参加学生へのミッション

土にふれることで心身の健康にもよい影響を及ぼし、生産の現場にふれることで消費者にササニシキのファンになってもらうことを目指してツアーを開催しています。参加学生には今後こうした事業を収益化できるように、石巻地域の観光資源を含めながら新しいツアーコースを企画してほしいと考えています。



## ＜石巻クール・受入企業紹介（続き）＞

現地コーディネーター団体：合同会社 巻組

「湊水産株式会社、山徳平塚水産株式会社、株式会社ヤマトミ」 ※ 3社合同での受入れ

### ●企業概要

#### 【湊水産株式会社】

安全性や栄養価値、価格、そしてもちろん「味」にこだわり、厳選した素材のみを使用した「たらこ」を製造・販売しています。生産性やコストを重視する一般的な機械漬けではなく、あえて手間暇のかかる手漬け方式にこだわっています。



#### 【山徳平塚水産株式会社】

昭和6年創業。石巻の地で80年間事業を営む会社です。世界三大漁場で上がる新鮮で豊富な旬の魚を使用し、より鮮度のいい煮魚、練り物などの水産加工品を製造、販売しています。



#### 【株式会社ヤマトミ】

石巻の沖合、金華山沖漁場は世界三大漁場の一つ。その豊かな恵みを活かした水産加工品を製造、販売する会社です。水産業の復興と共に石巻発の美味しさを全国へお届けしています。



### ●仕事内容

【STEP1】 各社での業務理解と発信方法の検討

【STEP2】 直営店「石巻うまいものマルシェ」でのアンケート調査

【STEP3】 販促ツールの提案と実践

### ●参加学生へのミッション

石巻の水産加工会社の3社の製造行程について実際に生産の現場に入った上で商品の強みを理解します。その上で、直営店に入り、顧客アンケートを実施することでどのような工夫を行えば消費者の手にとってもらえるか客観的に分析し、作り手の思いを生産者に届ける方法について実践を交えて検討します。(提案作業は3社合同で行います。)



## <女川クール・受入企業紹介> (予定)

現地コーディネーター：NPO法人 アスヘノキボウ

### 「株式会社オーテック」

#### ●企画概要

『女川に若者が集まる仕組みをつくろう。』

株式会社オーテックは、地域への情報処理サービスの普及と若者の就業の創出を目指し、平成5年に宮城県女川町や石巻市の自治体、企業ならびに組合からの出資により設立された会社です。創業以来、地域のITに関わるお困り事の解決を担ってきました。

東日本大震災後、女川のこれからをつくるため、子ども向けのプログラミング教室を地域と連携しながら運営してきました。この子ども向けプログラミング教室をバージョンアップし、若者が女川に集まる仕組みを一緒につくって下さい！

#### ●仕事内容

子ども向けプログラミング教室をバージョンアップ。若者が集まり、子どもたちが笑顔になる教室を構築する。

【STEP1】 子ども向けプログラミング教室の運営を理解する

【STEP2】 来春以降の教室運営を企画し、社内提案する

【STEP3】 教室を一緒に運営する仲間を募集し、次の教室に繋げる

#### ●参加学生へのミッション

子ども向けプログラミング教室をバージョンアップするため、実際に開催される教室の運営を行いながら、これまで開催してきた子ども向けプログラミング教室の内容を整理し、内容の整理を行います。そして、来春以降の教室運営を企画して、経営者や社内に提案。それが了承されたら、実際にその運営を担うスタッフの募集を行います。プログラミング教室の運営を軸にして、継続的に若者が女川に集まる仕組みの基礎をつくるのが、あなたのミッションです。

※子供向けのプログラミングなので、プログラミングの専門知識は不要です。オーテックの若手社員と一緒に考えてもらいます！

